



チエコ・スロヴァキヤ住民の宗教別

ローマ・カトリック  
 グリーク及びアルメニヤ・カトリック  
 新教  
 チエコ・スロヴァキヤ教會  
 ロシヤ正教會(オルソドックス)  
 ユダヤ教  
 他信者  
 不入會者

一〇、三八四、八三三	五九三、五〇三、三一九	五二〇、三〇九、三二七	三二〇、三〇九、三二七	七二四、五八〇、二四七
------------	-------------	-------------	-------------	-------------

不明である。

藝術

チエコ・スロヴァキヤの首府ブラチワラにおける藝術及び歴史上の記念物は殆どすべてのヨーロッパ民族と關係をもつてゐる。といふのは、この地

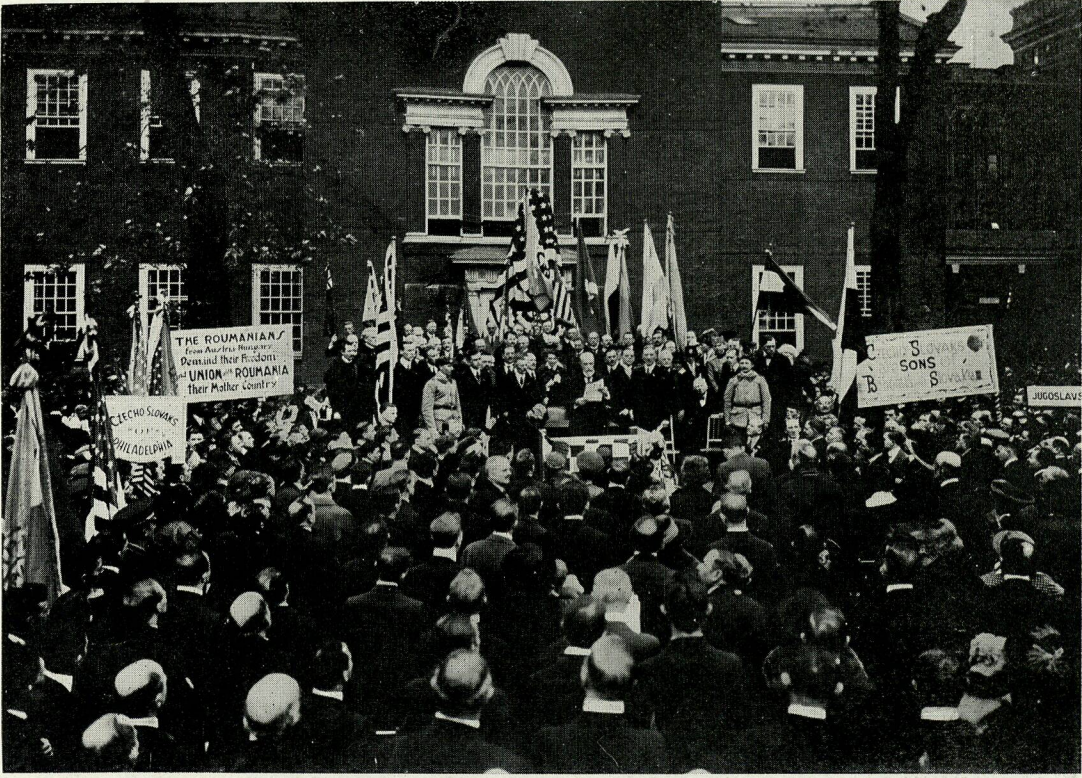
スワフ銅像の歴史に於ては、その名を輝かす宗教改革者ヨハン・スワフの像は、ブラチワラ市の中心に立つ。彼の功績は永遠に後世に傳へられてゐる。

は中世の初期から政治上、文化上、經濟上及び戦争上における中心をなし、ボヘミアの四隣にある諸國から来た外國人、即ちドイツ人、オーストリア人、ポーランド人、マジヤール人、のみならず、イタリア人、フランス人、南スラブ人、ブルガリヤ人、ロシア人、スペイン人、ポルトガル人、オランダ人、ベルギー人、バルト海沿岸諸國民或は遠くアメリカ人でブラチワラと少

らざる關係をもつた。かくてこゝに種々なる流派の藝術、即ちローマ派、ゴシック派、ルネッサンス派、バロック、ロココ、及び古典派、帝國派、第十九世紀派、近代藝術等が、何れもここに見られるのである。

第十世紀の初期に遡る建築及び藝術作品はローマ派の外観を示すもので、その最も大なる記念物はプラーク城であつて、その城の重要な部分は今なほ立派に保存され、禮拜堂、教會、及び僧正の家屋は多少存してゐる。

ゴシック建築は、第十三世紀の中頃から第十五世紀の終りに至るまでのプラークの建物及び裝飾にあらはれてゐる。この期の初期の遺蹟はまたプラーク城に



と機を發勃の戦大洲歐しき過はヤキアグロス・コエチたみてみ夢を立獨由自りあに下配支の家グルプスプハ間い永 式露披任就領統大  
式露披任就のそは眞寫。るあで士博クツリサマは人たれらげあに領統大の代一第のそてしを。たし會際に運機の立獨に逐し抗反にツイドてし

おいて見出される。これ等のゴシック式建築物の隆盛は、プラークにおけるフランス人によつてなされたが、この時代の郷土藝術はフランス及びイタリアの影響を非常に受けて發達し、そして附近の文化に革命的な影響を及ぼした。

ルネッサンスの時代の藝術家で第一位を占めたのはイタリア人で、かれ等は建築彫刻、繪畫上に影響を及ぼすこと多く、ルドルフ第二世時代には獨、和、白、西、瑞等の藝術も入つた。この式の建築等も、しばしばプラークその他で見出される。

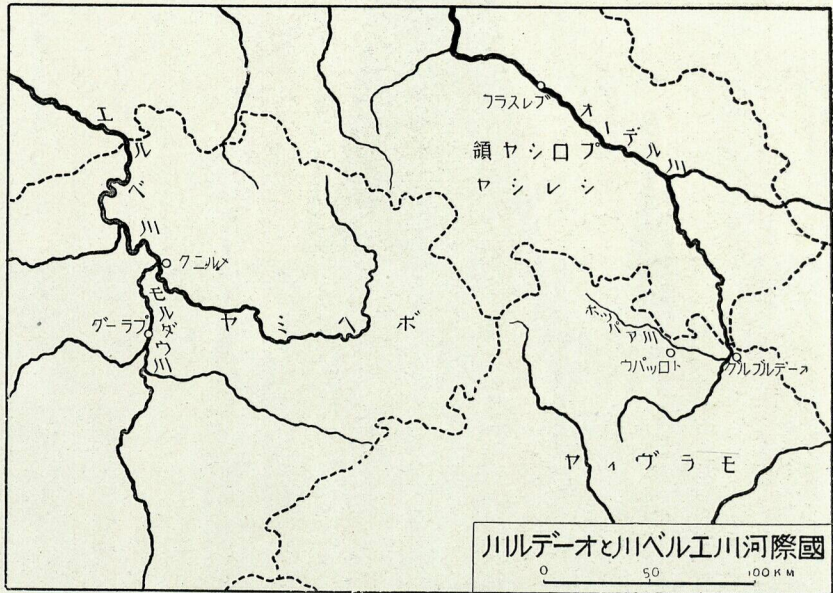
バロックとロココと古典派は、プラークにおける建築上に統一性を與へ、第十八世紀の城の統一的改造はこの適例である。それと同様に公園もまた記念の建物によつて覆はれるに至り、アーケードが建設せられ、道路が敷設せられ、城の麓の傾斜面は街の便益のために花園に作られた。

第十九世紀の初期における帝國派が、プラークに影響を及ぼしたことは比較的少なく、且つ間接的であつた。この時代の著明なる遺蹟は舊税關である。ホーリー・クロックの教會もまた、この時代に建てられたものである。

第十九世紀の後半が過去に基いて新方面を追求したのは、各國で見られたと同じで



ローヨは塔橋な麗端のこ。のもたし設建が世四第ヌャルーチ年七五三一紀西で橋スルーヤチるあに都舊のゲーラフ 橋美のゲーラフ  
。るあでつーの物景いしはさふにゲーラフの町き高りをかの術藝。るみてれはいとのもし美も最で中の物築建の代時のころけおにパッ



川ルデーオと川ベルエ川河際國  
0 50 100 KM

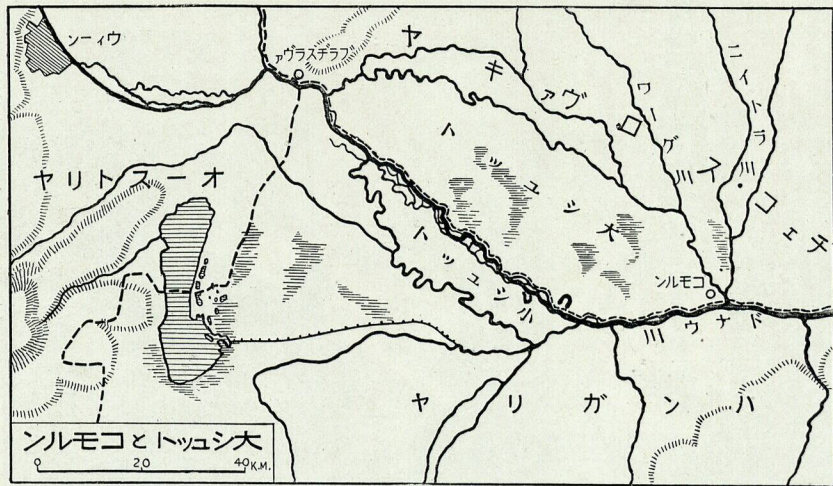
は、ブラーグでは近代藝術が盛になつて來た。近代ブラーグの建築裝飾等は、漸次進歩しつゝある。現在においては政府の支持と諒解を得て、新方面の創設がなされてゐるのは意義深いことである。

體育協會

チェコ・スロヴァキヤにおいて今一つ名高いものは、ソコール即ち體

あつた。多くの建物建設せられたが、この時代の最も美しいものは、ブルタバ河の右岸にある国立劇場である。これは一八六八年から一八八三年の間に全國民の仕事として設立された。作者はゼー、チテックである。かれはまた「藝術の家」を企圖した。これは現在の國會議事堂である。

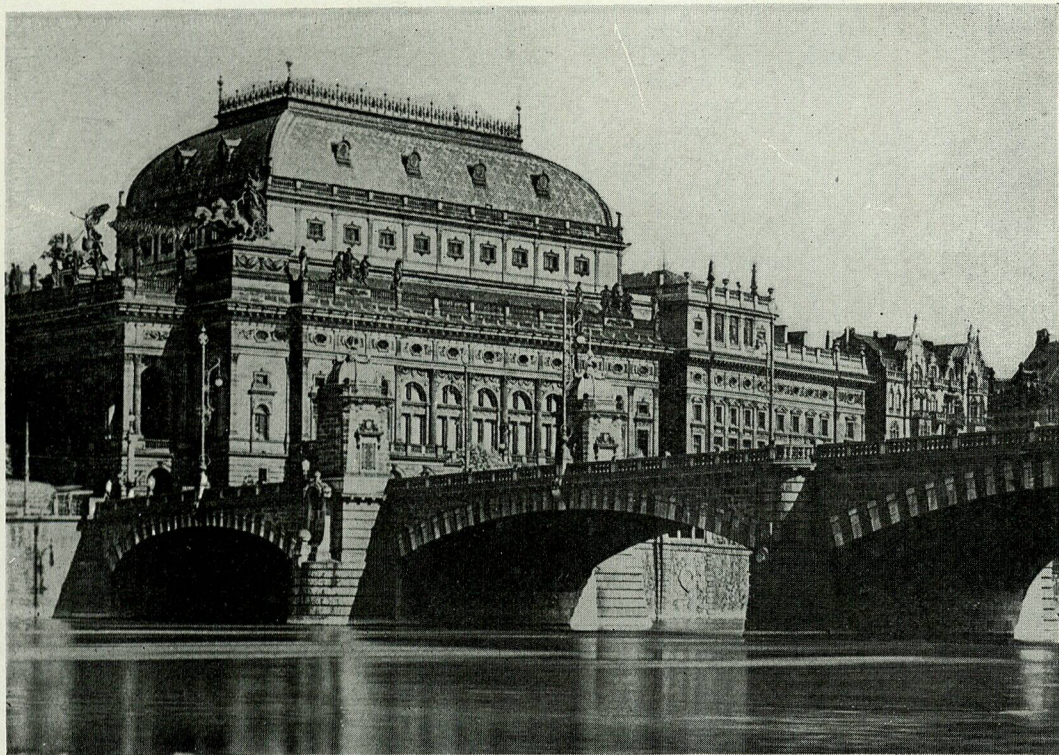
第十九世紀の終りにおいて



ンルモコとツシュク  
20 40 KM

育協會の活動である。ソコールとは元來鷹のことであるが、スラヴの神話では大膽と英雄主義とを象徵する。この協會は、國民的精神の涵養と健全なる體力の養成とを目的として有名な哲學者チルス博士等の創立したもので、自由訓練、機械訓練、兵器訓練等を含んだ一大團體運動である。日本などではこの種の運動は殆ど學生の専有であるが、この國では店で働く人も、事務所につとめる人も、官廳にゐる人も、八時間の労働時間が終ると、ソコールの體操場(多くは町の真中にある)へと急ぐのである。そこに入ると左の芝生には若い男が運動服で立ち、右の芝生にはたくましい女どもが、黒い服装で立ち並んでゐる。號令が一下すると、男の組が先づ出ているの體操をする。それが終ると、隊を組んでもとの位置にかへり、次に女の組がこれに代る。

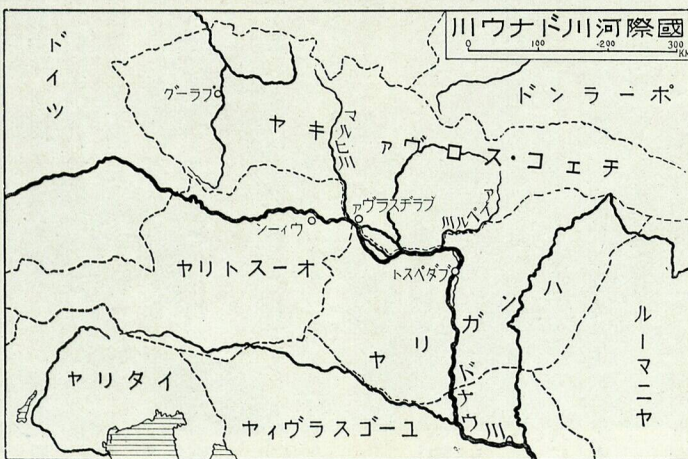
日曜日には大體操場に集つた何千の人々が、一緒になつて合同體操をはじめ、秋の初め、九月の頃には、ソコールの大行列が通

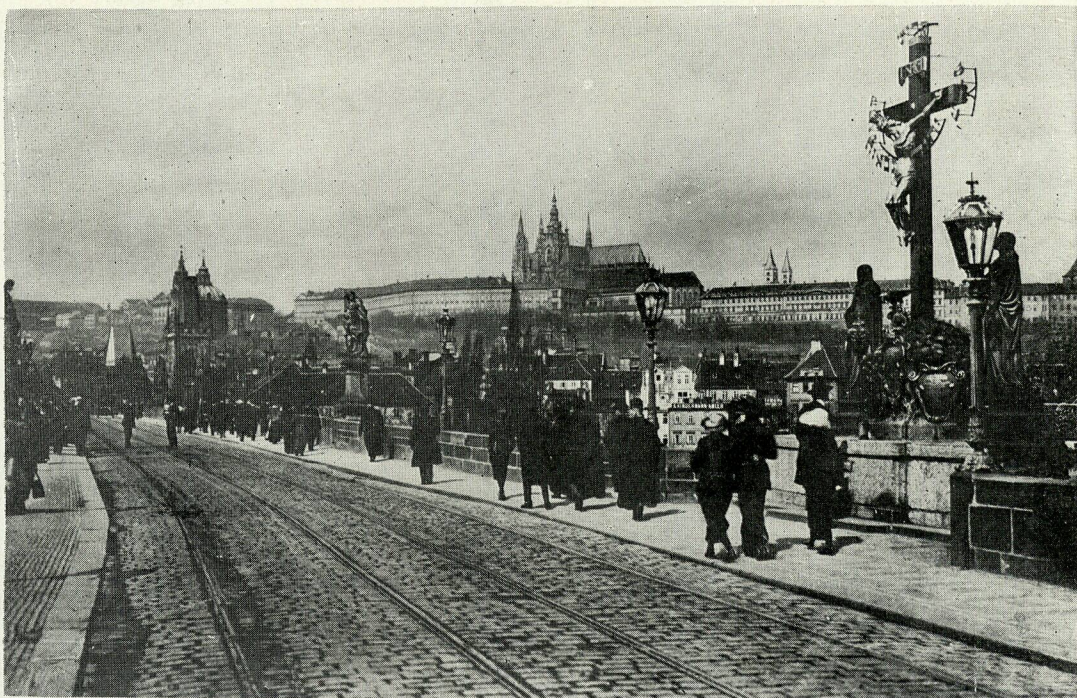


表代を術藝築建のコエチの紀世九十第。あるに呼橋の岸右の河バタルブはロドーバジ・ンドロナも即場劇立國のグーラフ 場劇立國  
るゐてれき場開もに季夏。のもたつ成に手のクツチ・ーゼてしと事仕の民國全てけかに年三八八一らか年八六八一で物建いし美も最る

おる。男女の組が皆ソコール服に身をかため、いろいろの旗におのおのの組の名をしるして、後から後から續いてゆく。ときには二萬三萬の青年男女の組が、樂隊を前にして町をねり歩くのを見る。これを見てゐると、われわれはソコールの國チエコ・スロヴ、キヤにゐる感が深い。この行列の通る間、交通機關はとまり、長い行列を通すのである。實にここではソコール萬能である。

惟ふにチエコ・スロヴ、キヤでは、人口の増加において、イタリヤや日本のごとく多くない。子供の多い國の勢力はその數で保たれるが、人口の増さぬ國では、國民の向上は、質の改良によつて、優良なる國民を作るといふことによるのである。國民の共同生活、共同行爲の養成といふ方面から見ても、ソコールの存在は國家の興亡に關係すること多大であらう。





ルカの名橋。市を流すモルダル河に架つたルーカ橋は物名ルーカの一つに数るれら橋名ある。橋の側には数多の精巧な彫像が並立する。モルダルの河に架つたルーカ橋は物名ルーカの一つに数るれら橋名ある。橋の側には数多の精巧な彫像が並立する。

## プラーク附近

### ボヘミヤの風物

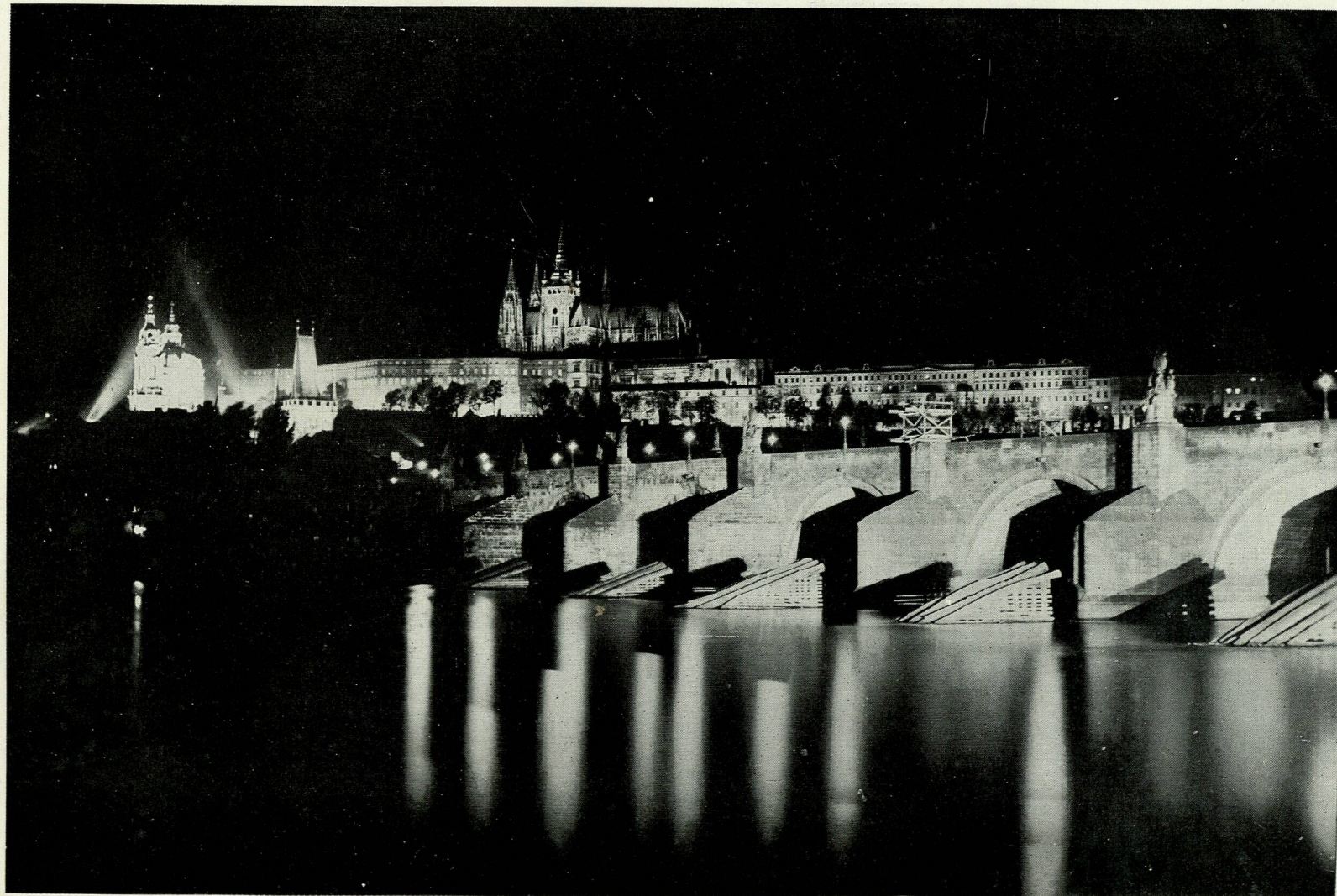
ドイツのドレスデンから汽車で南行すると、ほんの僅でエルツ山脈を越え、ボーデンバッハの町を過ぎて、ベースボールのダイヤモンドの形をした盆地に出る。この山に囲まれた盆地がチエコ人の住むボヘミヤの地で、周圍の山脈は、盆地を瞰下す豪華な觀覽席といった形である。こゝから見た盆地は、一帯の農耕地で、そこには男や女が働いてゐる。村々の廣場には、美しい家畜、馬や羊の群や、ときには鷺鳥の大群の去來するのが見える。遙かあなたに廣がつた農場には、小麦、燕麥、ライ麥等の作物が、青々と育つてゐる。

やがて汽車は、エルベの本流を離れて右に進み、暫くにしてプラークに着く。

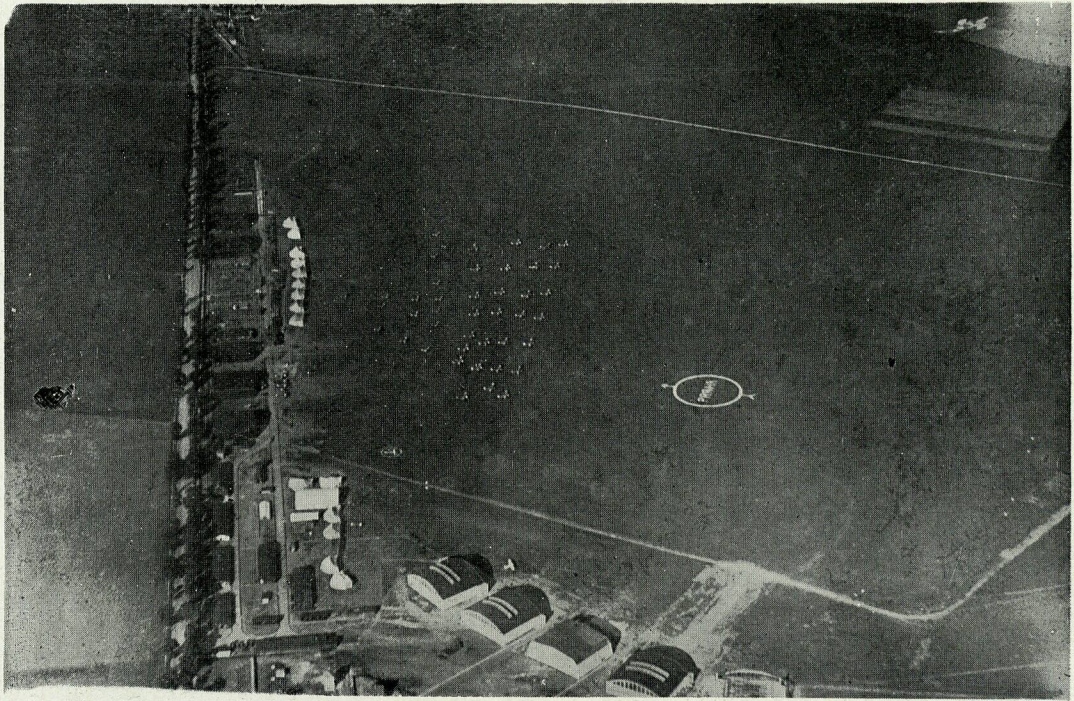
### 歴史の街

プラークは、いふまでもなくチエコ・スロヴァキヤの首府で、またこの國第一の大都である。大戦前まではオーストリア・ハンガリア帝國の、ボヘミヤ政廳のあつたところ、かなり古い歴史をもつてゐる。即ち、初めこゝはボヘミヤ侯の居城であつたが、第十一世紀にボヘミヤが王國となると共に王宮の所在地として榮えた。そしてその繁榮は、特にボヘミヤ王國の最盛時代だつたオトカル二世の頃、即ち第十三世紀に基を置く。

第十四世紀に入つては、ドイツ皇帝を兼ねたボヘミヤ王カール第四世がこゝに居を構へ、宏大な建築物を盛に建て、プラーク市の恩人とまでいはれるに至つた。その後第十六世紀の末から第十七世紀の初めまで、この地は神聖ローマ帝國の首府となつて、歐洲の政界を支配し、歴史の黄金時代をも現出した。



す落影のチーアの脚橋に水河るれ流み裏。くやびかび花くとごの夢くとごの石實に光電き白てれか置に前の帳の夜なうやのドーロビ黒の張一はてはずも森も塔も家も橋。ゲラナの夜街の夜 景街の皮りた燦  
るあでのものを感魅は會都の夜。るあで殿宮のーニカドラふるこほを麗壯は物建くたいを塔尖きとごの城浮く高空中げろひを翼兩の闇覆るた旋婉く高段一に上のそてしそ。るあで橋ルーカきしかつなも籍由は

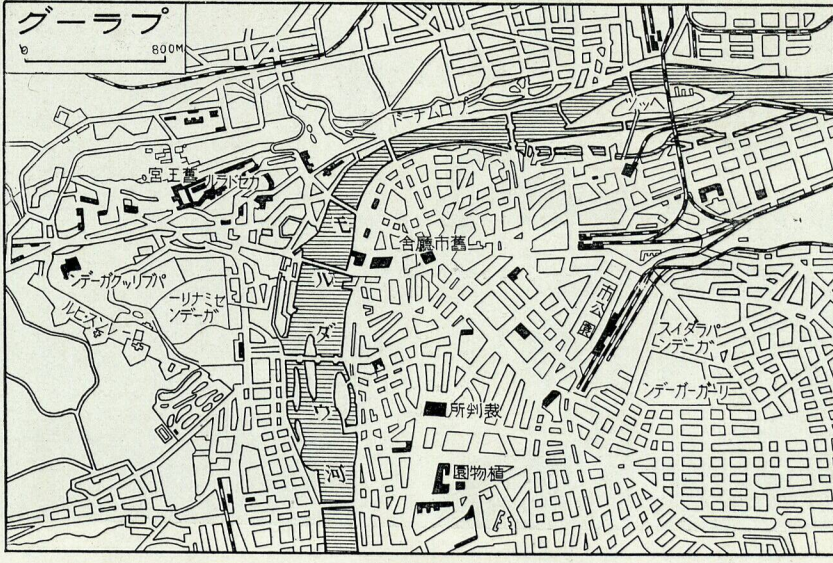


**グーラフ飛行場の様子**  
 るみてつもを路航の空い近に全完ど始はで在現に更はグーラプたし達八通四の開機通交てつよにと川河と道鐵  
 揚行飛のーソベクは眞寫。るみてけ開が路空のヘヤイヴラス・ゴエ・ヤリトスーオ・スンラフ・ツイド。いなもでまふいは路空航内國

更に第十五世紀の初め、偉大なる革命家フスが、こゝで宗教改革の第一聲を擧げて以来、この市はまた、宗教上のいろいろの争ひの巷となつた。

**文化・交通・商工業の中心**

グーラフは、ウーリンから汽車で約一二四〇キロ、ベルリンからはドレスデン經由で三二〇キロ餘、鐵道は四方から集中し、道路は八方に通じてゐる。またモルダウ河からエルベの本流を下ると、ハンブルグを経て更に大洋へと通ずることが出来るので、数千の船が河上を去來して、貨物を集め或は散じてゆく。更に近郊のクベソー飛行場には、少とも十門の航空路が集つてゐる。そして國內航空路はもとより、ドイツ、フランス、オーストリア、ポーランド等との間に、航空路が開けてゐる。

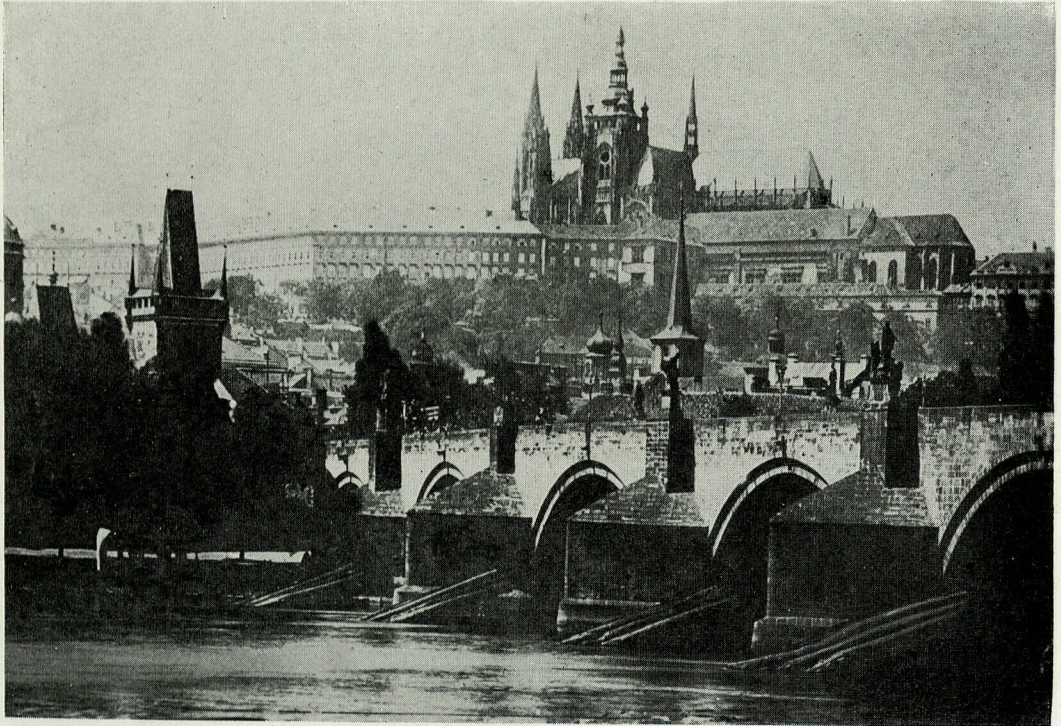




かくの如く交通の中心地をなすブラーグは、また勢ひ商工業の中心地であり文化の中心地である。三月と九月のいはゆる「ブラーグの国際的見本市、農業博覽會の盛況は、この市の活動的な商工業の實際を語るもの。郊外の工場町には、汽車、銃器、機械等の大製造工場や、棉花、革手袋、砂糖の大工場が、その林立する煙突から絶えず濛々たる黒煙を吐いてゐる。

この市が古來文化の中心であることは、一三四八年に開設せられた大學があるといふ一事で、證明せられる。つまりこゝはヨーロッパ諸國のうちでいの一、番に大學を開設した町である。

嘗て種々の大事件の行はれたブラーグの古都は、現在のブラーグの三分の一位の面積を占むるに過ぎず、現在のブラーグはむしろ工業都市として、世界的な大



名有ちはなすは橋の前手、觀景む望を殿宮—ニカドラフにかかるはてて距を河ウダルモるす流貫を中市のゲーラフ 殿宮—ニカドラフ  
 るみてつなに邸官の領統大は今でのもたれらて建に時盛の朝王ヤミヘボは殿宮。す野に水を影しい美たい着落はチーアの脚輪、橋ルカな

組織をそなへてきた。特に一九一八年以來は、一獨立國の首府として新進の活動を續け、急に新しい市區ができ、新しい制度が布かれ、新しい町ができて、政治上にも産業上にも、將また文化の上にも、新興國の首府としての意氣を示すに至つた。

### 藝術の都

ブラーグはまた、藝術の都市である。そのオペラの都として有名なことは人々のよく知るところ。

「一百塔の都」として聞えたこの市には、中世紀の古色蒼然たる教會の塔が、近代式の建築物の間に見られる。博物館には、貴重な美術品が整理されてゐる。しかもブラーグそのものが、また既に美である。美しい公園、庭園、市を流れるモルダウ河、すべてが繪畫的で、この市が「ヨーロッパの薔薇」と呼ばれるのも宜なるかなである。

ブラーグ人の生活は非常に活動的で、スポーツは最も盛である。婦人の肉體は、ソールを通して表現された、美の極致であると見てもよい。

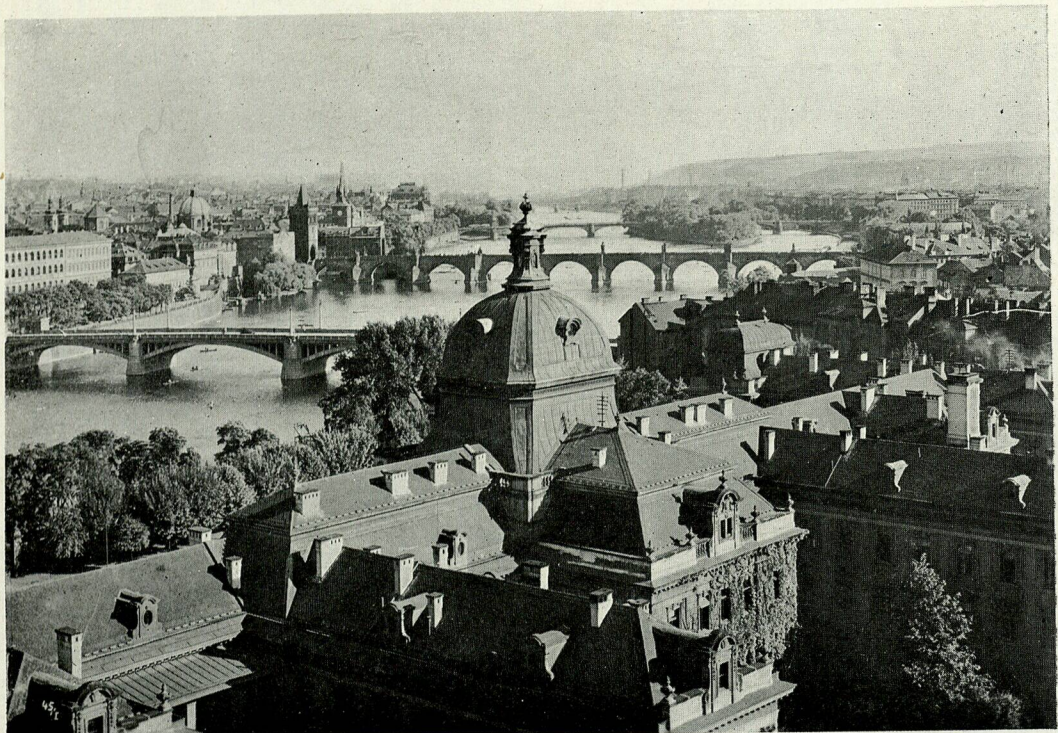
一方ホテルには、壯大なものはないが、家族的のものがある。料理は、「ブラーグ料理の好評のあるのは御存じの通り」といはれてゐるほど美味で、しかも安いから、比



美壯てつじまち立に間の家町い白面形のまざまさはせ渡見。グーラプるあで市都の術藝てしそ市の化文市の業工市の業商 **観大グーラプ**  
 るみてつ住も今が々人人的守保はにこそり残が郭一の家たしむ昔の前紀世歐はに中の街市舊。るみてえ聳が蓋圓々塔尖の院寺い古だし盡を



いし美てしく古も最もで中。るみてつ残が物建るた然蒼色古の代時紀世中ほな今はに市舊のグーラプき古史歴 **物建の古最グーラプ**  
 いなれらゐはにすせ定背をグーラプ都の化文と術藝き古はれわれわ時るすに目を築建な麗壯美優のこ。るあでルーホ・ンウタのこは物建



ルモるす流貫を中市もりよ何がるあで論無とこるみてれき長助で物のそ物建の的工人はさし美の市都のグーラフ **河アイウタヴき多橋**  
 みるみてし出り作を美合綜がどな橋のもつ幾いよの形込植々家いし美たれらて建てしに心中を河のこ。るみてしきし美を物のそ市が河ウダ



博はにこそ。るす値に異驚に更は點るみてれき頓整の部内らがなとこるささし美の觀外のそは館物博のグーラフ **館物博グーラフ**  
 みるあでのる語を化文代古の方地のこもれこ。るみてし集蒐を品術藝の代時のそヤ石化の骨人代古な全完のく多にかほの本標的驛物



て院寺い古も最の派スフ。たれらて建に人商ツイド年〇六一は寺のこ 院寺ヌーイテ  
るあが館書圖に概北の寺のこ。たれらへ加附に頃中の紀世五十第は塔尖の基二いし美。る

### 宮 殿 街

方面に行くのはウイルソン驛である。尙ほこのほか  
にデンス驛がある。  
ブラーグ市内には、二十一線の電車が走つてゐる。  
電車賃は晝間片道一・二クローネ（四錢弱）午後十  
時半以後は三クローネで、十二時半まで運轉して  
る。このほか乗合自動車路が七線ある。

ブラーグに入つて先づ目につくものは、市中を流  
れるモルダウ河である。モルダウの河が南から來て  
東に直角に曲る。その曲り目の内側に發達したのが  
舊都即ち「アルト・スタット」で、外側に發達したの  
が「クライネ・ザイテ」である。恐らくこの兩部は  
モルダウを越えるに都合のよい所であつたらう。さ  
う考へると、この市もその起因からして、橋市と  
いへる。

較的安價な生活ができる。だからブラーグには、歐洲各國人が訪ねて來  
て、數週間も數箇月間も在住する。各國の人、更に各種の人、即ち音樂  
家、俳優、文學者、政治家及び學者などのこゝに集るといふことは、た  
だにブラーグが歐洲大陸の中心にあるといふ、地理的位置からのみでは  
ない。

ブラーグの人口は約七二四、〇〇〇で、そのうちドイツ人が三〇、〇  
〇〇、ユダヤ人が六、〇〇〇ある。ブラーグに發着する鐵道は全部で十  
一線あり主なる停車場は三つあつて、中央の最も便利な場所にあるもの  
即ちドレスデンを経てドイツ方面に向ふ驛はマサリック停車場、ウーレン

の都といつてよい。フラドシンの廣場は、北は大監督の宮殿に、南はシュ  
ワルトエンベルヒ公の宮殿やカルメリ派の尼寺等に境せられ、西はフラン  
ツ・ヨセフの宮殿で境せられた中庭で、中央に聖母の像が建つてゐる。廣  
場の東側にボヘミヤ王城の跡がある。今の大統領の官邸がそれである。

この建物はリブツサが第八世紀に居を定めたものであると傳へてゐる  
が、一三三三年にカール第四世はフランス派ゴシックにこれを改築し、更  
にウラジスラウは一四八四年から一五八二年の間にこれを修繕した。更  
に第十六、七世紀の頃に改築され、最後にマリア・テレジャが、今日の如  
くこれを完成したといはれてゐる。

## モルダウの名橋

クライネ・ザイテよりアルト・スタットへかけてモルダウ河を横ぎる橋は、近頃できた殺風景な橋を除いて五つほどある。その中でアルト・スタットから真直に王城につづくのが、カール橋である。これは十六の石のアーチによつて河を横ぎり、その長さは約五〇〇メートル、一三五七年から、一五〇七年までの間に造られたものである。橋の右には一四五七年に建てられた古市塔が聳えてゐる。この塔はボヘミア王國の所領であつた國々の紋章で飾られ、カール第四世とその子のウエンゼル第四世の肖像もつけ加へられてゐる。カール第四世はプラゲ大學の創立者で、像は一八四八年大學創立五百年祭に建てられたものである。この塔には古い歴史がある。その昔

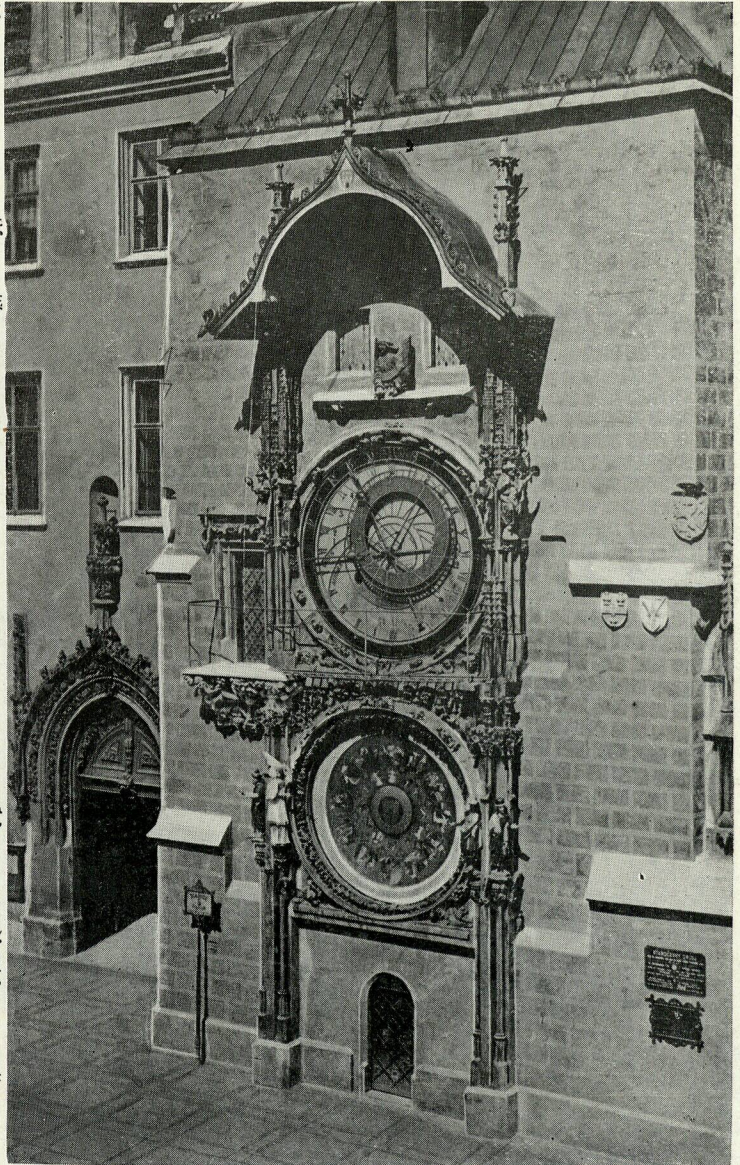


あに岸右の河ウダルモ。ろみてつなと堂事議會國のヤキ ャヴロス・コエチは今は物建のこたつあて堂事議會國のヤミへボとも 堂事議會國  
るあてつーの物名ゲーラプで作傑の術藝築建の國のこは式様な雅優てしに麗壯のそで築建名たれられて建てしと「家の家術美」るゆはいる

(一六二二年)死刑に處せられた新教貴族の首はこの塔の廊下に十年間も梟されてゐた。一六四八年オーストリアの士官達が叛逆したために、スウェーデン軍が戦はずしてクライネザイテを占領した時、これを防禦したといふのもこゝなら、一七四四年プロシヤ軍をプラゲから追ひかへす際の戦争も、またこの塔を中心として行はれたのである。

橋の欄柱は、三十の肖像と、聖者の群像とで飾られてゐる。この橋はこんな宗教上の裝飾があるのみではなく、昔この橋から皇后に叛いた者が突落されたとか、或はどうしたといふ物語が幾つも傳へられてゐるので、ボヘミア、モラヴィヤ、ハンガリヤなどの舊教徒は五月十六日には特にこの橋へ順禮に来る。

カール橋の東端に、有名なボヘミア國立の劇場がある。これはツイテクによつて造られたルネサンス式の建物で、一八八一年の火災の後シユルツによつて改造され、擴張せられたものである。建築、彫刻、繪畫の傑作を調和的に集めた美術的な建物で、また實にチエコ國民の自己犠牲と、集合意志の記念物である。カール橋の南にあつて、防禦島といふ中島を中心としてかけられた、長さ四五〇メートルの橋がある。これがフランツ皇帝橋である。この二つの橋の間の右側はフランツェン河岸道路で、そこにはフランシス第一世の記



計時天文のゲーラ  
小の上。るあで計時天文るあに前所役市い古つ一の物名ゲーラ

念碑が二〇メートルの高さで聳えてゐる。

尙ほこのフランツ皇帝橋の上流には、長さ二三〇メートルのバラキエ橋があり、カール橋の下にはケッテンステーク橋、フランツ・ヨセフ橋等がある。

### 舊都の倂

舊市街を廻る街道即ちアム・ゲラーベンは、濠のあとを道路にしたもので、その大道路を外側にして、新市街がある。この市街を西北より東南に横ぎる恐ろしく広い道路がある。これをウエンゼルの廣場となへ、

その東南端にボヘミア博物館がある。この博物館はその位置の高いと建物の美しさとを誇るほかに、その内容の整頓されてゐる點が特に眼を惹き、博物學的標本のほかに、完全な古代人骨の化石や、その時代の藝術品の多いことは、ボヘミアが先史時代から文化の盛だつたことを物語るものである。

古市區の中央にあるものは、グロッセ・リングと稱する。市廳前の廣場である。この廣場の右にはテイヌ・キルヒがあり、左には市廳舎がある。その前にはフスの立像が壯嚴に、力強く屹立してゐる。

年にドイツ商人によつて建てられた、フス派の最も古い寺である。その鋭くそり立つ屋根と二つの鋭い塔とは、第十五世紀の中頃附加されたといふことである。その當時寺の前額としては、金色燦爛たる聖餐盃が飾られてゐた。これはフス派の徽章であつたが、ワイゼンベルヒ戦争の後、この聖餐盃はマドンナの像にかへられた。この寺の内部には、有名なデンマークの天文學者、テイホ・ブラへの墓石が置かれてゐる。尙ほこの寺の北側には、キンスキー宮殿といふのが附屬してゐる。これは尊い圖書館である。

市廳舎はこのテイヌ・キルヒと向ひあつてゐる。第十九世紀の中頃建



街もに日ふいうか。すは現をさし美な楚清でか静たまは姿の都古たつはけを雪とらすつう。殿宮のーニガドラフは築建大たつをも塔尖るえ見く選に共中。望遠の市グーラブたれは蔽に雪 **グーラブのれざ冬**  
。—がるめてし黙沈く園が木裸なうさ寒し閉にうやたひし目もか昔の古千は窓の塔古の上の丘たれざ冬。だのるめてし出り作を氣園雰の樂歌きなり極てつ集れ群が女男いし美はに揚會樂音々場劇ラペオの



この写真は、オーストリアのウィーン中央駅（ウィーン中央駅）の正面入り口である。この建物は、1868年に竣工した新築の建物で、ウィーン中央駅の主要な駅舎として知られている。

### 大學その他

この廣場から道を右にとつてカール橋の方に行くくと、クレメン・チノムがある。こゝは大學の圖書館で、二十三萬の書を藏し主にボヘミヤの文書を貯へてゐるので有名である。大學にはこのほか觀測所、講義室、博物館列所などがある。そも／＼このブラグ大學は、カール橋の美しい銅像の主カール第四世により一三四八年に創立せられたものである。

河岸のチェコスロヴァキヤ國會議事堂は、もとチェコ貯蓄銀行によつて一八七六年から一八八四年につくられた「美術家の家」の中央廣場である。その美しいことをもつて非常に有名である。

てられたゴシック式の建物である。この他にも一四七四年に建てられた古い寺や、有名な大きな塔や、會議室は今尚ほ存在してゐる。殊にこの塔には名高い古い天文時計があつて、時間には時計の上の小窓が開き、黒い人形が出て來て鐘をたゝいて時を報ずるといふ、原始的な趣向をこらしたもので、この町を訪ふものには、見のがすことのできないもの、一つである。

プラグの西一六キロにあるワイゼンベルグは、ボヘミヤにおけるプロテスタントの運命を決した、一六二〇年十一月四日の、記念すべき戦役の行はれた場所である。またプラグの北四〇キロの丘陵上にあるカールシュタインの古城は、皇帝カール第四世が第十四世紀に創立した城で、王室の寶物をしまふために作つたものである。城内の禮拜堂には有名な繪畫があり、またカール皇帝時代の博物館がある。





樂しい祭日 のに五人の子供の時 樂しい祭日 のに五人の子供の時... 別格たまはさし悦の時たつ上來出てしうかんとやちにけだれそ心親じ同るこづい。うらあでとこたしを勞苦けだれどにりかばいたせきを

### ビルゼンの市街

ブラーグから汽車で西南にすむと、約一〇〇キロでビルゼンに着く。こゝはミース河とラドブサ河との合流点にあつて、人口八萬八千人昔は城壁で圍まれてゐて防禦の好位置にあつたので、普墺戰爭の時には、よくその攻撃に堪へることができた。

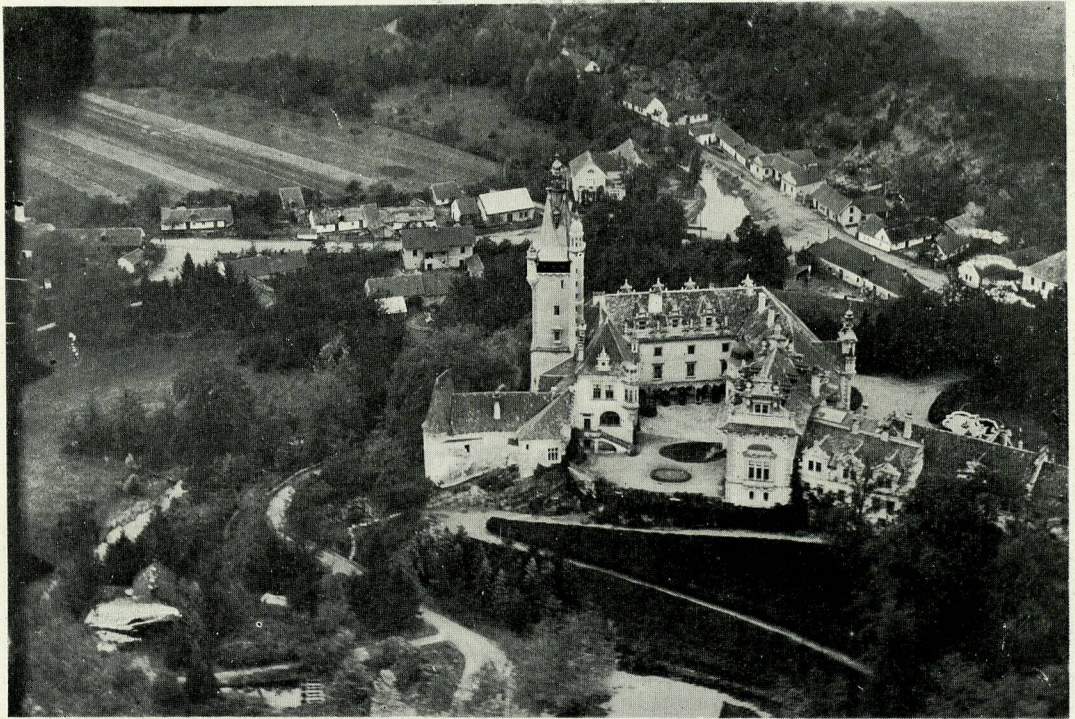
今はブラーグに次いでボヘミヤ第二の都會をなし、ビールを飲む人にとつては忘れられないところである。といふのは、こゝはビルゼン・ピールの醸造場であるからである。ビルゼンはまた、ワレンスタインの陰謀を企てたところであるといはれ、かれはそのため放逐され、その一味徒黨二十四人は一六三〇年に、こゝの市場で死刑に處せられたと傳へられてゐる。

市を廻つて大通りがあり、そこには昔の市廳のコベキとか、或は有名な作曲家スミターナの像等がある。歴史博物館、産業博物館等も聞えてゐるが、特に有名なのは岩の中に入り込んだ市立ビール醸造所である。ビルゼンにはまた以前、有名な武器製造所があつた。

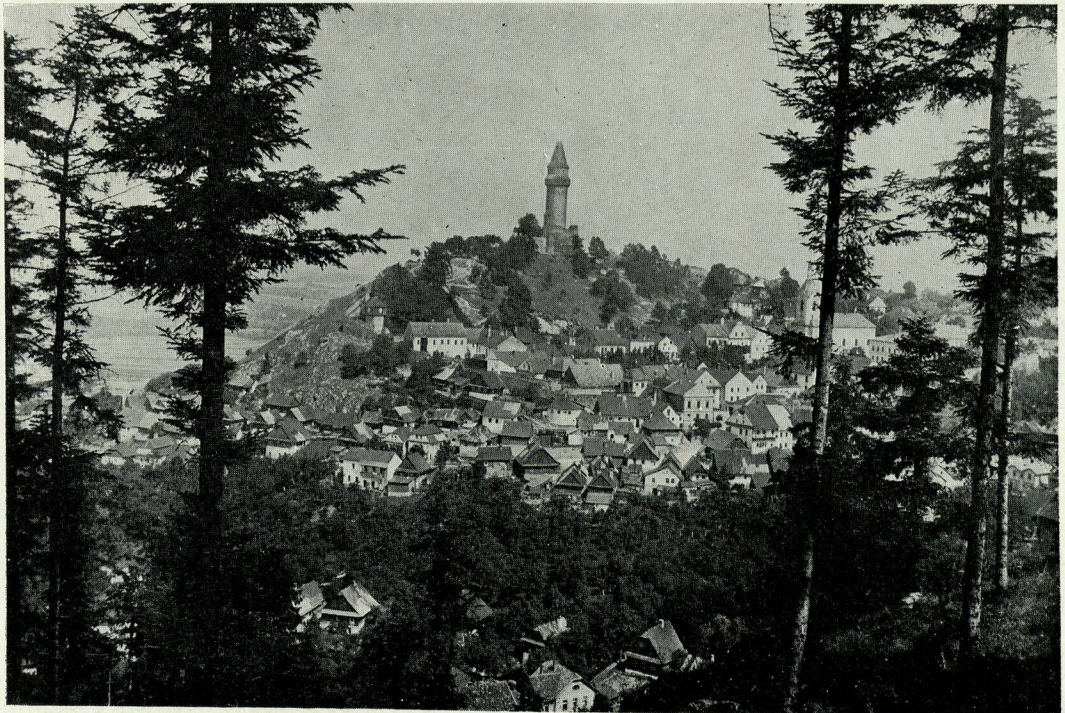
### 温泉郷

われは、次にビルゼンから西方を迂回して、カールスバッドを訪ねよう。カールスバッドは海拔三五メートルの有名な湯治場である。人口は一萬九千五百人しかもこの町を訪れる客は年々七萬人を超える。特に肝臓病に効のある源泉は、テブル川の狭い谷間の、松林に包まれた斜面にある。この松林には、縦横無盡に小路が通じてゐる。この源泉は一三四年、カール第五世が狩獵中発見したといはれてゐる。しかしカールスバッドはそれより一世紀も前に、既に保養地として知られてゐた。

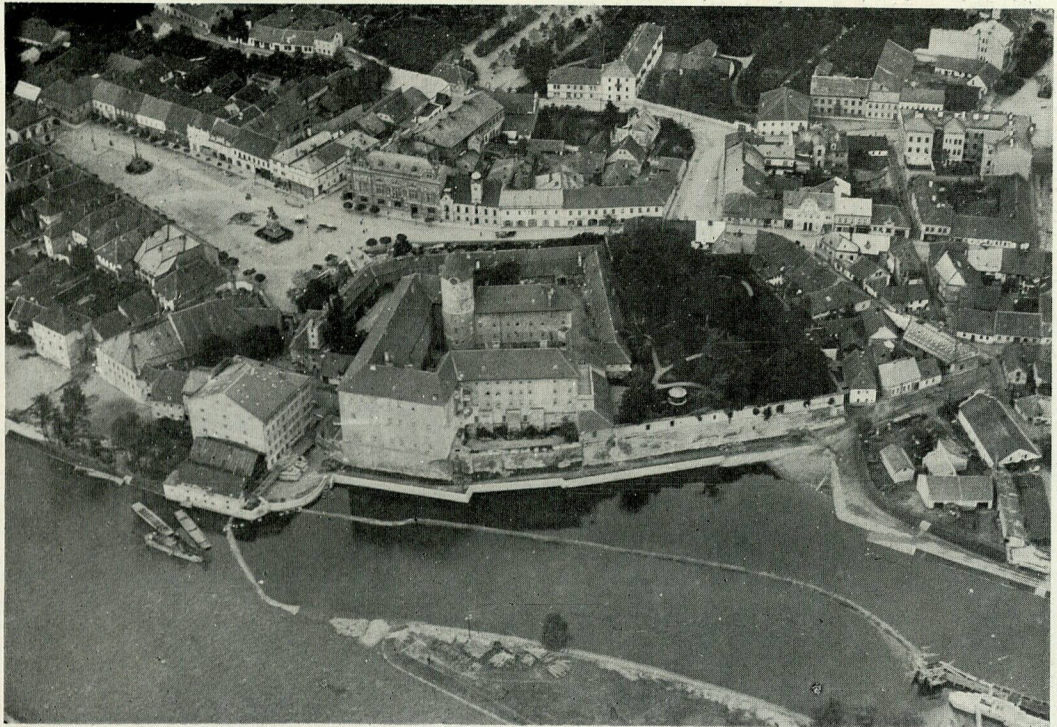
源泉の主成分は、硫酸曹達、炭酸曹達及び食鹽である。源はテブルのほとりスプルーデルシャーレ、またはスプルーデルテッケとして知られて



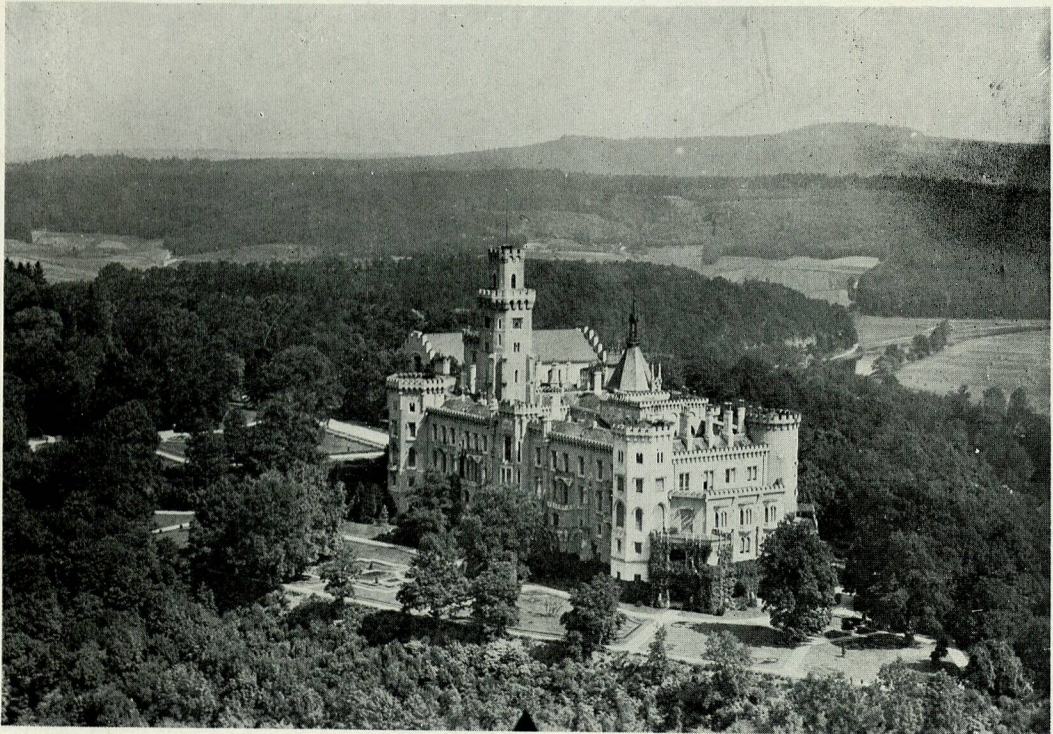
ばれあが丘はで國のこ。るあにろことる到が城にけだたつあで地の亂戦の多幾らか昔は地のヤキアヴロス・コエチ **城のエツニホルプ**  
 るあでりかば物建いし美な麗壯もれづいは城のそてしを。い多が城どほれを。いながひ違間らたつ思とるあが城ずら必はに上の丘のを



こ。るあで地勝む好の家行旅や家術藝は町のカルベムラトスるあに間のラホラピとクットコ西北のトッタスイロフ **城カルペンラトス**  
 るみてつ誇を影面の頃しりなかや華道士武ほなも今は塔古のルトーメ三三き高がるゐはてし廢荒でのもの古最國のこは城る殘に上丘の、



名有てしと揚泉賦性リカルアたまてしと揚浴の水の夏は町のイデラブイデボすなを心中の野沃近附み臨に河ベルエ **城イデラブイデボ**  
 ずは喜を目の々人が姿いし美の城のイデラブイデボるた物名の町のこれそ。さし美の流清のベルエるれ流と々洋と森の緑む包を町るあで



建ふいうかは能才たれ秀の像アキツヴロスるけおに術藝築建。るあでつ一の城いし美的な表代のヤキアヴロスたまれこ **城カオウル**  
 るせた立浮を果効の物工人もにかいが美の然自川山くまり取をれそにるふ加。るきで像想かごとこふいとかのもいし晴素にかいもて見を物

る。非常に硬質の岩の下に湧き、その岩を壊せばどこからでも熱湯が  
 溢し出る。温泉の沈積物は湯の口を止めるので、三箇月に一度はその  
 殻を打ち破らねばならぬ。嘗てリスボンの地震の時に、三日ほど止まつ  
 たことがあるのみで、その發見以來既に五百六十年間滾々と湧き續けて  
 る。温泉は十七箇所より湧き、冷  
 鉱泉は二箇所より湧いてゐる。その  
 温度は常温から攝氏の七五度に當り  
 浴用、飲用等に供せられる。湯治と  
 いつても、日本のやうに日に幾度も  
 浴するのではなく、精精一日に一度  
 位入つて、附近の美しい景色を眺め  
 て逍遙するのである。

浴者は氣候のうらか、な六・七月  
 頃には、朝五時前に起きて、鉱泉を  
 飲み方々の湧泉を廻つて歩く。ま  
 た或る所では六時から八時まで、音  
 樂堂で音楽を奏する。その廣場のほ  
 とりに噴出してゐる鉱泉を、大きな  
 コップで飲みながら音楽をきくとい  
 ふ趣向である。

大通の北には公園があり、そこに  
 も鉱泉が噴出してゐて、遊覽者の飲  
 むにまかせてゐる。こゝにはまた軍隊の療養所もある。  
 市の娛樂設備は完全で、所々に廣場があり劇場なども完成してゐる。  
 殊に氣持のよいのは、幅廣い大通りが幾つも横切つてゐることである。  
 所々に詩人ゲーテの胸像やカール第四世の肖像等が、青葉がくれにそこ  
 こゝに見られ、そこにまた一種の趣きがある。

### エツゲルの古城

カールスバッドから、エツゲル河に沿うて溯ると、ドイツ國境に近くエツ  
 ゲルの古城に行くことができる。



—ボンダモのンボズパツラキルーガンダモい短のトーカスイ美の脚 農老たび帯を銃拳  
 といし珍物は姿の姓百老た來て出らか村のヤキアヴロスに日祭の町るま集のちた隊兵い若ヤイ

昔は帝國所屬の自山市で、要塞地であつて、北はエツゲル河に境され、  
 南は多角形に走る防壁によつて防がれてゐたものらしい、平行した多角  
 形の町は、今でも「掘通り」とりて通り」或は「環通り」といふ風に、  
 小さい町を取り巻いてゐる。河の畔の岩の上には、一一八〇年頃にフレ  
 デリック、バルバロッサの建てた城があつて、もとは國王とか皇帝とかが